

地域再生とまちづくり

<第13回>

各都市が目指すものは

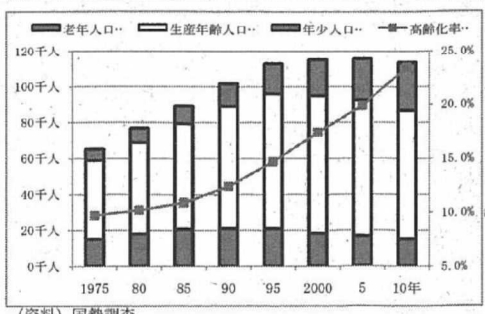
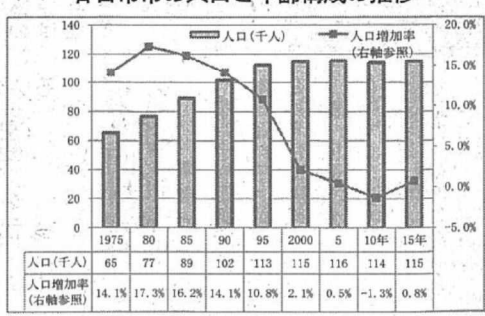
広島へのベッドタウン

世界遺産である厳島神社、日本三景の一つ宮島は廿日市市にある。廿日市市は、広島市の西隣に位置し、穏やかな瀬戸内海（広島湾）に面する人口約11万5000人（16年8月1日時点）の都市である。明治時代には郡庁のほか、数多くの官公庁の出先機関が設置され、山陽道の交通の要衝として、政治・経済・文化の中心として発展した。

広島県廿日市市・新市街地整備で変わる沿岸部

発と沿岸部の埋め立てによる大規模な宅地造成により、85年には人口が5万人を突破、「日本一人口が多い町」になるなど広島市のベッドタウンとして都市化が進み、88年4月から市制の施行で旧廿日市市が発足した。その後、03年3月1日に佐伯町、吉和村と、05年11月3日に宮島町、大野町と合併したことで、南は瀬戸内海、北はスキー場や国定公園など自然豊かな中国山地の県境（山口県・島根県）まで市域が拡大している。廿日市市の市街地の中心は、JR山陽本線・広島電鉄宮島線廿日市駅付近だったが、官公庁施設の集約、生活・文化の拠点施設整備などを方針とした「シビックコア地区」の整備に伴い、宮島街道方面に市街地の中心はシフトしている。08年に廿日市地方合同庁舎（税務署、法務局など）や家電量販店を核とした大型商業施設「テナコート」が完成した。最近ではJR廿日市駅北口の土地区画整理事業や、シビックコア地区に隣接

廿日市市の人口と年齢構成の推移



人口減少続く山間部

国勢調査（15年は速報値）に基づく、人口の推移や人口構成区分は別掲グラフのとおりである。ここ20年間、廿日市市の人口はほぼ横ばいだが、05年をピークに人口は緩やかに減少している。特に、山間部や島しょ部は人口の減少が進んでおり、沿岸部の団地の高齢化などの課題もあるが、市有地を活用した特別養護老人ホームの建設や、空き家対策、地域医療の拠点整備などが、2040年人口10万人維持を目標に取り組みを進めており、その動向に注目していきたい。



1956年に廿日市町が合併発足した時の人口は約1万9000人だったが、65年頃から始まった丘陵部の開

④JR廿日市駅北口の土地区画整理事業エリア
⑤最近開業した大型商業施設

世界遺産の島の玄関口 新旅客ターミナル整備も

する元興野木場埋立地で「ゆめタウン廿日市」（敷地面積約5・1畝、地下1階地上5階建て、延べ床面積約18万㎡、店舗面積約4・6万㎡、201店舗、駐車場約3400台）が15年6月に開業するなど、市役所周辺の利便性は高まりをみせ、新市街地周辺の人口は増加傾向にある。

また、毎年400万人近くが訪れる宮島では、外国人観光客の来島者（15年）が過去最高の約21万8500人（前年比約1・6倍）を記録するなど、世界遺産の島・宮島の対岸である宮島口では、フェ

（日本不動産研究所中四国支社、不動産鑑定士・石森慎吾）